



歓迎のごあいさつ

第59回全日本花いっぱい泉佐野大会

泉佐野市長 千代松 大耕



泉佐野市は大阪府の南部にあつて、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置しており、背後に一部が金剛生駒紀泉国定公園に指定された和泉山脈を擁し、また、眼前には茅渚の海と謳われた大阪湾に面しております。

泉佐野市には史跡日根荘遺跡があります。日根荘とは、鎌倉時代から戦国時代にかけて、現在の泉佐野市域にあった九条家領の荘園です。日根神社や火走神社など、日根野・大木地区に指定地が点在しています。絵図や文書がたくさん残されているため、寺社堂などの建築物やため池、丘陵などの景観が現在でもよく残されていることで、全国的にも有名な中世の荘園遺跡となっています。

16か所ある日根荘遺跡の中に「土丸・雨山城跡」があります。泉佐野市土丸と熊取町にかけて立地する山城跡で、南北朝期から戦国期にかけての曲輪、武者隠し、堀切など城郭にかかわる遺構が確認されています。ここからは、関西国際空港が一望でき、中世山城から見える現代の空港に離発着する航空機や、山城の足元を走る高

速道路は時空のギャップを感じ、趣があり、魅力あふれるまちとなっています。

また、この日根荘遺跡の中には国の重要な文化的景観として「日根野大木の農村景観」があります。文化的景観は地域の気候や風土に合わせて、人々の暮らしや生業のなかで形成された景観で、特に重要とされたものが国の重要な文化的景観として選定されますが、大木地区は、豊かな自然環境とともに国史跡日根荘遺跡指定地をはじめ、中世荘園日根荘に由来する景観が受け継がれており、大阪府では初となる重要な文化的景観に選定されました。

また、平安時代から始まったとされる熊野詣。京都を出発して淀川を下り、阿倍野、堺、和泉、和歌山へと熊野街道が続きます。泉佐野市には、鶴原王子、佐野王子、初井王子があります。王子とは熊野権現の化身として巡礼者を守護する御子神を祀った社です。人々はここで旅の安全を祈願し、疲れをいやしたことでしょう。藤原定家は私家集、『拾遺愚草』で「冬の日にあられふりはへ朝たては浪

に浪こすさのの松原」と詠んでおります。時を越え、地域をつなぎ、人を繋ぐ道にあつたのです。

このように歴史を感じる本市は、今年度市制施行70周年を迎えました。平成31年度はさらに飛躍の年の実現に向けて、平成31年4月6日に第59回全日本花いっぱい泉佐野大会を開催します。潤いと、笑顔がいっぱいとなる泉佐野へ皆様のお越しを心よりお待ちしております。



土丸城跡から関西国際空港を望む

大木の里 コスモス園

観賞用と摘み取りができる畑に分かれており、たくさんの人が訪れています。

「日根荘大木の農村景観」として国の重要な文化的景観に選定された大木地区で「日根荘大木の里コスモス園」が今年も開園しました。

伝統的な農村景観が広がるこの地で4年目を迎えました。昨年のコスモス園終了後、畑にレンゲを植えて開花後に花を鋤きこみ土の改良を行った後、耕耘や草刈りなどを、大木まちづくり協議会の方々と有志の方々が準備を行い、その後の、育苗、手入れ、管理も行っていたいております。



シンボルマーク 大会ロゴ

シンボル画・タイトル制作を泉佐野文化協会会長、泉佐野美術連盟会長を歴任され、絵手紙・一閑張り作家の宮脇泰彦氏に依頼、制作いただきました。

花は泉佐野市の市花「ささゆり」を、ご自身で考案されたタオル筆にて描かれたものです。

泉州タオルは泉佐野市の地場産品であり、また、花いっぱいの文字に製作者の泉佐野市への愛と花への敬意が込められています。



ひかりの実の制作

「花いっぱいスマイルアートプロジェクトひかりの実」は『ひかりの実』の制作を通じて「笑顔」を育み、人を育てるプロジェクトです。

【ひかりの実】は、一人ひとりの「笑顔」に寄り添います。「二つひとつの笑顔を大事にする」というメッセージを届けます。花いっぱい運動は、花を通じて全国の人々がつながる、心の豊かさを育みます。この大会で「一人ひとりにとって大切な笑顔」が交流を始め、「泉佐野市が大切にする笑顔の物語」となり、世界へ「笑顔」のメッセージを発信します。



モッコウバラ配付



本市では、緑化事業として花と緑あふれるまちづくりを推進するため、モッコウバラを無料配付します。枝に棘が無いため安全で取扱いやすい特性と、生育も早く病気にも強いので誰にでも育てることができ、配付は式典当日、700株を予定しており、緑化活動を通じて環境美化や地域のふれあいの場を広げることにつながっていきます。



みんなで育てる花いっぱいプロジェクト



みんなで育てる花いっぱいプロジェクトに参加されている泉佐野市内の小・中学校5校から、各学校100株ずつパンジーの花を第59回全日本花いっぱい泉佐野大会へご提供いただきます。こどもたちが花を育てていくプロジェクトで、花の苗を通して、人々の結びつきや地域の結

束力を高めることで地域力の再生を図るとともに、都市緑化を推進することによって緑豊かな潤いあるまちづくりが始まることを目指しています。



上之郷小学校



長坂小学校

インフィオラータ制作



地域の皆様とともに創りあげる究極の参加型アート、インフィオラータは、約400年前イタリアのサンピエトロ寺院を起源とし、現在のスタイルはジェラーノという街で300年程戦時中も継続しているとのこと。花びらを敷き詰めることでフラワーカーペットとも呼ばれるインフィオラータ。作る人はひとつのものを作りあげる一体感を感じ、見る人も心を癒し、喜びを分かち合っており、地域を明るくすることに貢献します。泉佐野大会では、南海本線泉佐野駅構内で制作する予定です。さまざまなつながりが生まれることでしょう。



(C)ハレバレシャシ

新発田市

緑・花振興協会について



新発田市の緑花推進の要である新発田市緑・花振興協会は、昭和60年6月に設立され今年で33年を迎えました。当協会は、「緑化運動や花いっぱい運動を発展させるために、個人、団体にゆだねるばかりでなく、行政と相互連携して活動を合理化し、切磋琢磨して効果的な道を開く必要がある。」という趣旨で、緑花に明るい学識経験者や各種花の会、商工・農業団体、農業高校、小中学校校長会、行政（議会・職員）などから役員を迎え、市民会員を募って設立されました。

主な事業は、国・県・市道の歩道・空地の花壇やフラワーボックスを管理運営している自治会等への花苗支援、技術指導、学校・公園を始め公共施設への樹木の植栽、市民植樹祭への参加、地域の花づくり団体の育成支援、花づくり講習会や花壇コンクールなどを開催してきました。また、平成9年には、清子内親王殿下をお迎えして「第4回世界・第40回全日本花いっぱい新発田大会」を盛大に開催することができま

した。このような活動が認められ、平成10年には内閣総理大臣表彰をいただくことができました。

現在もこれらの事業を実施しておりますが、近年は、趣味の多様化、労働年齢の高齢化、共働き家庭の増加などに伴い、事業に参加する会員や役員の高齢化、行政の姿勢、会費・補助金の減少など、多くの問題を抱えております。今後、これらの問題を解決し、協会の次の世代にどう引き継いでいくかが、行政の協会への姿勢と合わせ課題となっています。

（新発田市緑・花振興協会）



国道7号線の花壇(加治コミュニティ協議会)(H30年)



住吉町の花壇の花がら摘み(猿橋中学校)



中央公園の花壇での花植え



第45号

発行日
発行

平成31年1月
全日本花いっぱい連盟事務局
長野県松本市中央1-18-11

TEL 0263-3213042
FAX 0263-3216511
Mウイング2F